

# 土浦試合開始

## ～土浦市を愛し始めよう～

TA:飯田マリ

班長:土居千紘 副班長:今井純 議事録:樋口雄一 書記:森英高

### 1.目指す都市像

#### 1-1 資源の活用

土浦固有の資源として、霞ヶ浦・筑波山・レンコンなどがあげられる。そのような自然資源を有効に活用して行くことで「土浦らしさ」というものを表現することができる。また、地元住民も自分たちの特産を再認識することで土浦に対する愛着心を持つと考える。

#### 1-2 再開発

土浦駅周辺部に存在するモール505は現在焦点の多くが空き店舗として使用されていない現状である。また、土浦駅北側開発のようにすでに移転先が決まっているものもある。更に土浦市役所も移転自体は決まっているが候補地がまだ確定していない計画も存在する。それらのものに対してスムーズに計画を進めて行くと同時に、最適な配置をして行く必要があると考える。

#### 1-3 住みよいまちづくり

この項目の中では、スポーツ振興・空間整備・教育福祉の充実を重点的に扱う。

コミュニティの形成においてスポーツを行うことは非常に有効であると考えられる。また適切なスポーツを導入することで教育福祉の発展にもつながると考えられる。

#### 1-4 交通

渋滞を緩和するためだけではなく、公共交通そのものの整備や、ロータリーなどを整備することで、より多くの住民・観光客が寄り魅力を感じやすく、利便性に飛んだ交通を整備することを目標とする。

### 2.地区別構想

#### 2-1 新治地区

##### 2-1-1 現状と課題

新治地区の特徴として、筑波山麓に広がる自然の豊かさ、農村地帯が広がっている、また土浦市の中で高齢化が特に急速していることが挙げられる。自然を活用した観光資源も多く、代表的なものとして小町の丘やスカイスポーツなどがある。観光資源が豊かな一方で、そこへ訪れる観光客の集客状況に偏りがあること、集客性が低いことが課題とされている。また、公共交通機関として「新治バス」という瞬間バスが地区内や土浦市街地までの行き来を行っているが、新治バス運行開始時の利用者目標のうち2割程度しか市民に利用されておらず、厳しい状況となっている。

##### 2-1-2 方向性

このような現状を踏まえ、新治地区では「多世代が行き来する自然豊かなまち」を目指す。まず新治バスの運行見直しによる、利用者増加を目指す。また今ある自然を生かした観光性の向上を目指し、多世代が楽しめる観光資源を創出する。そして観光性向上による自然の荒廃を防ぐための対策も同時に考えていく。

#### 2-2 神立地区

##### 2-2-1 現状と課題

神立地区において、最も特筆すべき点は工業団地が多く存在することにある。この点は土浦のほかの因子にも影響を与えており、主要幹線道路の渋滞を招く結果にもつながっている。また、神立駅自体も非常に衰退しており、空き店舗の数が目立ち、街路樹も非常に少ない印象を受けた。

更に、土浦市内において人口が増加していることも特徴として挙げられる。

##### 2-2-2 方向性

土浦の工場が集中していることもあり、まずは向上と住宅が共存することを目指す。そのためにも主要幹線道路の渋滞緩和を行う必要がある。

また、神立駅において企業を誘致し緑があふれる多世代交流が生まれるような工夫を行う必要がある。

#### 2-3 おおつ野地区

##### 2-3-1 現状と課題

この地区は人口が増加する地区としてこれから開発される地区である。霞ヶ浦やはす伝が近くにあり、豊かな自然を備えている地区である。おおつ野ヒルズでは、商業・業務施設、都市公園を中核とした職住近接を目指す複合市街地である。平成23年2月に国道354号バイパスが開通することによって交通アクセスの利便性が増し、ますます期待できる地区になっている。さらに、土浦協同病院がおおつ野地区に移転することが決定しており、おおつ野ヒルズ約1割の敷地を占める。しかし、都市が他の地域と比べて安い現在では商業エリアの多くが埋まっていない状況である。

##### 2-3-2 方向性

自然豊かな土地として、ハス田や霞ヶ浦の利用促進をさせたい。具体的には、ハス田を利用した地域イベントや霞ヶ浦についてもっと身近に感じてもらえる空間整備などがある。これからの市街化に伴い、公共交通の強化は必要になってくる。さらに、職住近接をめざすためにも、企業誘致を積極的に行って行く必要がある。土浦協同病院が移転してくることを考慮し、今後の日本を考えるとおおつ野地区は病院を拠点としたまちづくりを行って生きたいと考えている。

#### 2-4 荒川沖

##### 2-4-1 現状と課題

戸建て住宅地を中心とした閑静な住宅街であるが、幹線道路沿いにはロードショップが立ち並んでいる。課題として、人口が集積しているにもかかわらず街区公園の空白地帯があり、身近な憩いの場の不足が挙げられる。

##### 2-4-2 方向性

防犯活動やポケットパークの整備などで安心・安全な住環境を形成していく。また、公共施設などのバリアフリー化の推進によって誰にでも住みやすい環境をつくる。

### 3.重点計画

#### 3-1 スポーツ

##### 3-1-1 スポーツの重要性

土浦市における死因別死亡者数の割合を見ると、約58%の方が、生活習慣病が原因となっている。

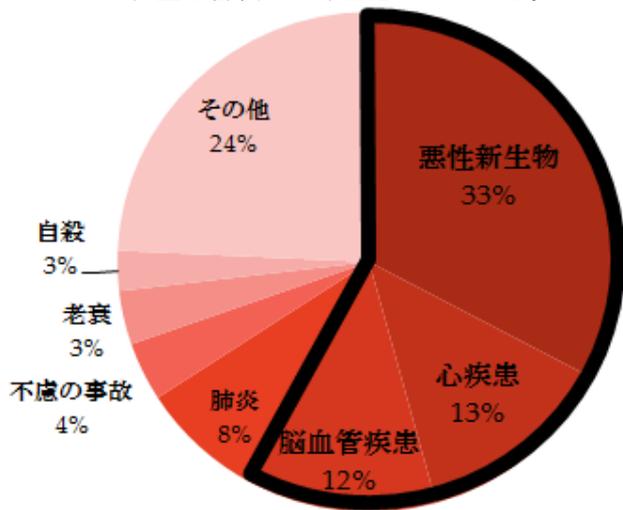


図 3-1 土浦市における死因別死亡者割合

健康面で見ても非常に高い数値であるとともに、経済面からみても、土浦市の医療費は生活習慣病の原因となるものに多く費やされていることが分かる。厚生労働省生活習慣病予防特集の中で「生活習慣病は個人が日常生活の中で適切な運動をすることによって予防することができる。」と記載されている。

以上の面から、運動をするということは、健康面だけではなく、医療費の低減にもつながるということが出来る。

ここからは土浦市におけるスポーツの現状を確認していきたい。健康つちうらの中で「運動不足だと思いますか。」という質問に対して約8割の方が運動不足を実感しており、「これから運動を始めたいと思いますか。」という質問に対しては6割の方が運動を始めたいという回答をしている。

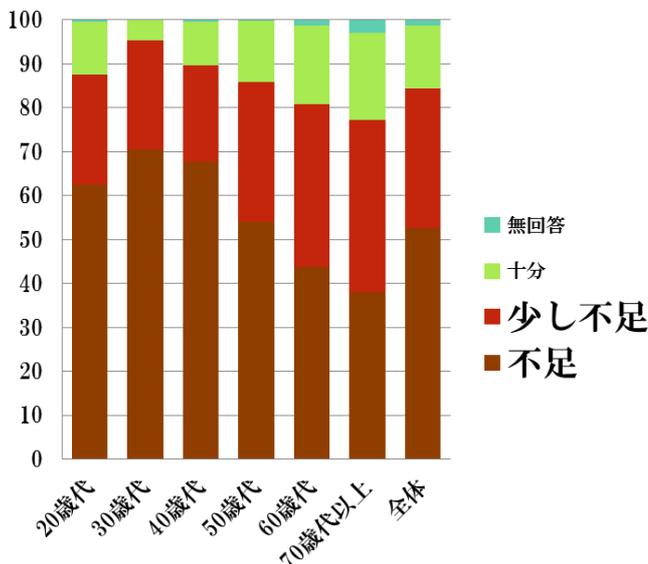


図 3-2 あなたは運動不足だと思いますか

土浦市はこれらに対して課題を3つ設定し、

- 1.日常生活の中で楽しい運動を取り入れる必要性
- 2.体を動かすことの楽しさを体験できるきっかけを作る必要性
- 3.運動を継続できるように一緒に運動を行う仲間作りを行う必要性

をあげている。

私たちはこれらの課題に対して、チャレンジ・ザ・ゲームを提案したい。

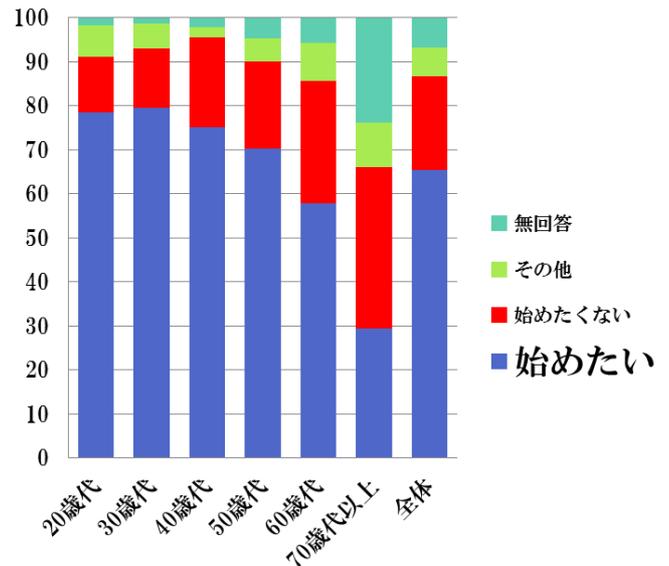


図 3-3 これから運動を始めたいと思いますか

### 3-1-2 チャレンジ・ザ・ゲーム

チャレンジ・ザ・ゲームは、グループで交流しながら記録に挑戦したりし、遊び感覚で体を動かす楽しさを味わえるスポーツである。また、1年中、いつでもどこでも行うことができるものである。実際に学校、職場、地域など、様々な場所で取り組まれている。チャレンジ・ザ・ゲームは1つのスポーツではなく、多彩な種目があるためその人に合ったスポーツを探すことが可能なのである。運動強度も、軽いものからハードなものまでいろいろ存在し、楽しむことが体力作りにもつながり、子供たちや体力低下が気になる世代が楽しく運動するのに適している。チャレンジ・ザ・ゲームは、初めての人同士でも、触れ合い交流ができるように工夫されている。例えば、声を掛け合いながら行うスポーツが多いので、やっている人のみならず、見ている人も一緒になって大きな声を出して楽しめ、一体感が高まる。また、仲間と力を合わせないとうまく記録が出ないので、声を掛け合ったり助け合ったりが自然と生まれるのである。チャレンジ・ザ・ゲームは普通の競技スポーツと比べてシンプルなるルールである。なので、少しの説明で理解でき幅広い年代で楽しんでもらえるようになっている。チャレンジ・ザ・ゲームの最大の特徴として「運動嫌い」と思っている人にも運動を行うきっかけを与えられているということである。例えば、運動嫌いの原因が「体力に自信がない。」という人には、年齢や体力に応じて自分に合った種目を選択でき、体力差は、リズム感覚やグループの団結力で補える。また、「運動＝ハード」と思い込む人には、自然に運動をさせる。チャレンジ・ザ・ゲームは遊び感覚で行っていくのでいつの間にか運動に繋がっているのである。今では年間10万人もの参加者がいて、種目によっては、全国大会まである。更に、チャレンジ・ザ・ゲームは日本だけでなく海外でも行われているスポーツなのである。

### 3-2 駅周辺

#### 3-2-1 モール505の実態

私達が考える中心市街地の土浦らしさは、日本最大級505mのショッピングモールであるモール505である。

現在は倉庫などの利用やシャッター街化から、人がいない、環境がよくないなどの理由もありモール 505 は魅力がないものとなっている。私達はモール 505 の活性化が駅周辺そして郊外部の活性化へとつながると考え、モール 505 の再生計画を提案する。

### 3-2-2 土浦駅北口開発

モール 505 のプロジェクトを進める上で、私達は平成 18 年度に都市計画決定された「土浦駅前北地区第 1 種市街地再開発事業」及び、「図書館新設事業」と連携して行う。その結果、図書館新設、市役所移転による人口流動(図書館利用者+来庁者+職員)の増大が見込まれる。

### 3-2-3 モール 505 の具体的提案

モール 505 の中央部分を撤去し、スポーツ振興及び地域活性化のきっかけとなるような広場を整備する。チャレンジ・ザ・ゲームや移動式店舗を利用した定期的なイベントにより、人のにぎわいを作る。また、飲食店・商業エリア、高齢者・子供エリア、事務所にエリアを分け、役割を明確にする。飲食・商業エリアは図書館・市役所移転による飲食店の確保を目的とし、例として、地元商店やチャレンジショップを誘致する。高齢者・子供エリアは、駅前利用者の機能充実を目的とし、例として高齢者多機能施設や託児所等を誘致する。また、モール 505 の拠点性をより向上させるために、既存も有効活用されていない水辺・緑地空間の整備を行う。

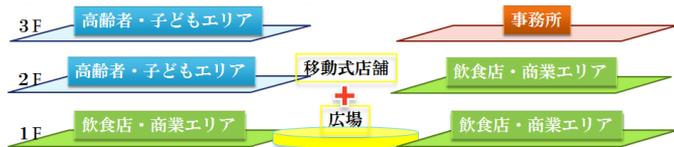


図 3-4 モール 505 外形

### 3-2-4 移動式店舗

移動式店舗をモール 505 に持ってくる利点としては、時間帯に合わせた運営が可能、様々な店舗が販売できること、強いインパクトを与えることで集客の拡大につながる、モール 505 を活性化させるきっかけづくり、既存店舗の宣伝効果や販売網拡大などが考えられる。農作物が盛んであるので、地元産の野菜の朝市を開催したり、カレーフェアで土浦のカレーを宣伝したり、地元学生が主体となってお店を開いたりなど用途はさまざまである。普段は広場としての賑わいと移動式店舗によるイベントによりモール 505 は賑わいの場として機能していく。

### 3-2-5 土浦駅ロータリーの現状・問題点

土浦駅ロータリーの現状・課題点として、西口、東口ともに、ロータリーが複雑であるため、住民が利用しづらい現状がある。また、車動線と歩行者が交差している箇所が何箇所か存在し、歩行者が危険という課題がある。

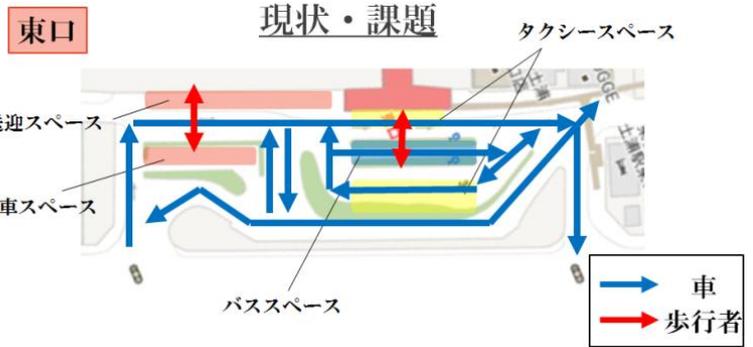
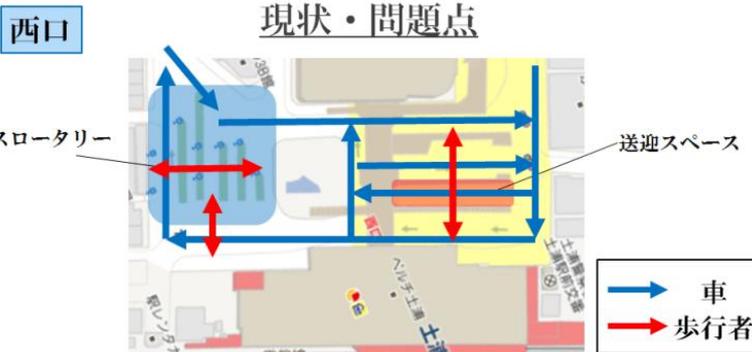


図 3-6 土浦市東口

### 3-2-6 土浦駅ロータリーの提案

- (1) 西口・東口の用途を分ける  
西口：公共交通ターミナル（バス・タクシー）  
東口：送迎ターミナル（自家用車）
  - (2) 車、歩行者の動線を明確化
- 以上のように、安全で使いやすいロータリーの提案をする。

### 3-2-7 高架新設による道路混雑の変化

図書館新設、市役所移転により、土浦駅西口周辺が混雑することが予想される。そのため、土浦駅の西・東口を結ぶ高架を新設することを提案する。JICA STRADA による分析(図 3-7)より、高架を新設することによって、土浦駅周辺の混雑解消につながるという結果が得られた。また、このことから、高架新設により土浦駅の利便性向上につながる想定される。

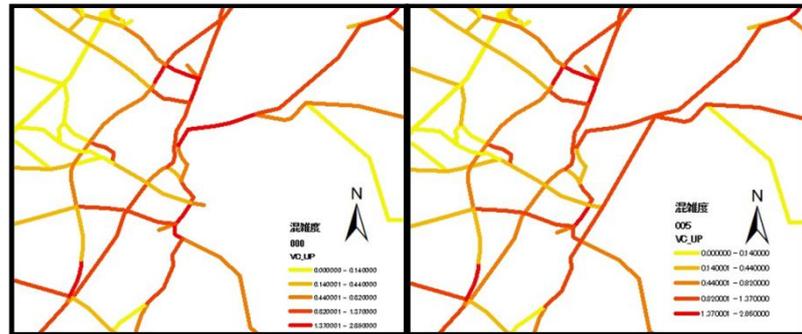


図 3-7 STRADA 結果

## 3-3 霞ヶ浦

### 3-3-1 霞ヶ浦×エコ=おおつ野

おおつ野地区は、現在「おおつ野ヒルズ」というニュータウン計画が進行している。今後この地区では人口増加による先進が期待されている。しかし一方で人口増加による生活排水の増加、更なる霞ヶ浦水質汚染の恐れが懸念されると思われる。そこで、おおつ野地区では、近隣に立地している霞ヶ浦環境科学センターとの連携により「エコタウン おおつ野」を目指し、おおつ野から、積極的に霞ヶ浦の浄化活動に貢献していく。

### 3-3-2 霞ヶ浦×憩い=総合公園

霞ヶ浦総合公園は、霞ヶ浦の生態系を保全する仕組みづくりなどが行われている、自然を満喫でき、運動施設も豊富である総合公園である。しかし、散策コースの荒廃などの課題がある。ここでは、今ある自然をさらに満喫できるような仕組みを考えていく。1 つは霞ヶ浦に直接触れ合える空間づくりである。湿地で囲われている水際沿いを開拓し、霞ヶ浦まで誰もが近づけるようにする。

2つ目として、広大な敷地の中に交流空間を創出させる。具体的案としてはBBQ・キャンプ施設の設置などである。これらにより、霞ヶ浦の自然を誰でも身近に感じられる空間にする。

らに霞ヶ浦の再開発をすることで、外部から人を呼び込むことが可能であり、地域の人に多く利用してもらえ、まち全体として活性化していく。そうすることで市民が土浦市を愛し始めるのである。

#### <参考文献>

JA つちうら公式サイト <http://ja-tsuchiura.com/>  
財団法人土浦市農業公社・土浦市農業公社ホームページ  
<http://tsuchiura-n.or.jp/3051.html>  
くだもの村リトルファーム <http://littlefarmjp.com>  
土浦市観光協会【公式ウェブサイト】  
<http://tutiura.727.net/asobu/index.html>  
こまちパラグライダーズスクール  
<http://www.komachipara.com/>  
地区別の計画  
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/>  
八島いさおの土浦レポート  
<http://www.yashima-isao.com/archives/3230110.html>  
地区別での公共施設に係る実態把握・分析  
[http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1313731273\\_doc\\_4\\_1.pdf](http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1313731273_doc_4_1.pdf)  
霞ヶ浦環境科学センター  
<http://www.kasumigaura.pref.ibaraki.jp/>  
三鷹市  
<http://www.city.mitaka.tokyo.jp>  
ブラジル イベント  
[http://komachi-machi-machi.blogspot.com/2009/12/blog-post\\_07.html](http://komachi-machi-machi.blogspot.com/2009/12/blog-post_07.html)  
<http://macobrasil.exblog.jp/i4/14/>



図 3-8 修景画像

### 3-3-3 霞ヶ浦×観光＝中心地区

土浦駅東側にある、川口運動公園からアクアマリーナの地区は、駅が近いにも関わらず、市民や観光客などの一般人が霞ヶ浦近辺まで近づきにくい空間となっている。この中心地区では、誰もが霞ヶ浦へ近づける広場作りを行う。広場対象地としては、川口運動公園前のヨット乗り場を対象とする。その広場の活用法として、土浦花火大会の会場移転先を霞ヶ浦にすること、クリスマス時期に冬のイベントを開催すること、というイベント会場としての活用を考える。

### 3-3-4 冬のイベント効果

現在、土浦市は冬の大型イベントがない。そのため、私たちは、資源である霞ヶ浦を活かしたイベントを提案する。このイベントにより、土浦市民には霞ヶ浦を身近に感じてもらうという効果が期待され、観光客には土浦市を水の都としてアピールできると思われる。霞ヶ浦でイベントを行うことによって、地域の活性化を促したい。

### 3-3-5 具体的な冬のイベント

ブラジル、オデジャネイロの湖上のクリスマスツリーを事例とした、「Aquatic Christmas」を提案する。霞ヶ浦で高さ約50m、土台の直径約20mのクリスマスツリーを湖上に設置し、その周辺をデートスポットとして、全国的に土浦市を発信する。また、イベント期間中は遊覧船を臨時運航する。

## 4.まとめ

まず、モール505の再開発および、広場でのスポーツなどによる集客のアップにより、モール505は活性化していく。しかし、これはあくまで先進的な取り組みであり、モール505の活性化をきっかけに多くの地でスポーツを取り入れ波及させていき、スポーツを多くの地域で取り組んでもらう。さらに波及させていくことで市全体にスポーツを取り組んでもらえるようにする。そして、地域ごとにあった政策も同時に進めていくことで地域ごとの魅力が増し、市全体の魅力が増すことに繋がる。さ